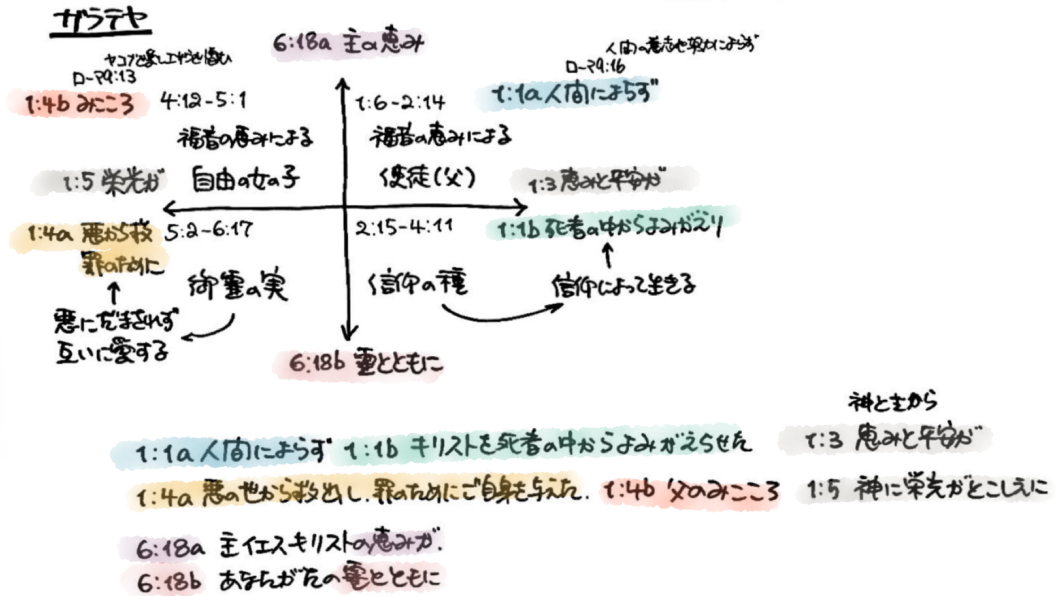




ガラテヤ人への手紙 1-6章 ガラテヤ人への手紙の祈り

予想：手紙の中の祈りは、その手紙の全体概略になっている。

2016.3.25



ガラテヤ人への手紙の全体が、手紙の中の祈りがその手紙全体の概略になっているのではないかという予想です。それを見ました。1章1節から5節の導入のところに祈りがあります。それと、6章の最後にも祈りがありますが、その概略が、4つに分けたときのそれぞれの段落に該当しているように見えます。この分析については、別のビデオやホワイトボードを見てください。

ここは(1:6-2:14)、パウロは神様から直接選ばれましたということをお話しているところ。おもだった人たちに認められましたということをお話しています。「パウロです、ケパです。ケパは…かき乱す者に気をつけなさい」みたいなところがある、ここに入っています。ここは(2:15-4:11)、アブラハムの信仰。信仰によって義と認められる。子どもとされるということがありました。ここは(4:12-5:1)、ハガルと自由の女の子どもの話、選びの話です。ここは(5:2-6:17)、御霊の実です。…というように分かれていますけれど、それは、もう一度自分で確認してください。

出だしのところに「どうか」3節。5節にも「どうか」ということで、2つに分けられているというように見えます。最初のほう(1:1a)が、人間によらないで、パウロは人間によった人じゃないです。(1:1b)キリストを死者の中からよみがえらせた方によることが、これです。それが、最初の段落(1:6-2:14)人間によらず、(2:15-4:11)キリストを死者の中からよみがえらせてくださった父なる神によったという、このキリストを死者の中からよみがえらせてくださったというのが、2章からのところだと考えています。それで、(1章)4節の、(1:4a)今の悪の世界から私たちを救い出そうとして、罪のためにご

自分をお捨てになった、(1:4b)神の御心によるということ、4節も2つに分けて、人間によらず(1:6-2:14)、死者の中からよみがえらせた(2:15-4:11)、悪から救い出して罪のためにご自身を与えた(5:2-6:17)、父のみこころによる(4:12-5:1)というように4つに分けました。それで、人間によらず、「人間の意志は努力によらず」というのはローマ9章16節にあります。その福音の恵みによって使徒になりましたということと、死者の中からよみがえらせた父なる神という話は、ここの中(2:15-4:11)では信仰の種の話なのですけれども、信仰によって生きるものになったという、信仰によって子とされたということは、死者の中からよみがえらせた父は、ということを感じた信仰によって生きる者になったということです。ここのつながりです。こっち(5:2-6:17)は、悪の世界から私たちを救い出そうとして、罪のためにご自身を与えたということ、なして下さった神様の子どもたちは、御霊の実を結ぶ。悪にだまされなくて、罪のために自分を与えたというのは、互いに愛する、互いに愛し合う。肉に従ってではなくて、御霊によって互いに愛し合うということが、この4節の悪の世界から救い出そうとして、罪のためにご自身を与えたということに対する私たちの応答ということですので、この段落に対応しているものではないかと考えました。自由の女の子どもであるという福音の恵みによって、自由の女の子どもとされているという話も、ローマの9章13節で、「ヤコブを愛しエサウを憎む」というのは、神の御心によるということが書かれているとおりに、この箇所は、そのことをあらわしているのだろうというふうに見ましたので、最初の祈りの4つ(1:1a,1b,1:4a,4b)の書かれている賛美の理由は、ここに書かれているということです。この段落ごとだということです。

3節にある恵みと平安があなたがたの上に、父なる神と主イエスキリストから恵みと平安があなたがたに与えられますということと、この神に栄光がとこしえにありますよという、神様から与えられることと、私たちから栄光がとこしえにとということが、この前半が、神様から恵みと平安が与えられている。後半は、その与えられた子どもたちが神の栄光をあらわすということで、3節と5節というように考えています。

最後に(6章)、「どうかわたしたちの主イエスキリストの恵みがあなたがたの霊と共にありますように」ということですが、上のほう、ababの上のほう(aa)は、主の恵み、福音の恵みがキリストから与えられて、わたしたちの霊が御霊によって満たされているというのが、後半(下のほうbb)というふうにして、6章のこちらの前半(上)とこう(下)。1章は右と左というように分かれているのではないかとということで、手紙の全体の概略になっているのではないかとということです。